

ADL の工程・動作に関わる環境因子のチェックリスト (PA-ADL) の開発に関する研究

－ 食事の支度, 生活の管理に関わるチェックリストの整合性の分析 －

研究分担者：田平 隆行 鹿児島大学医歯学域医学系・教授

（研究協力者：下木原俊 鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程）

研究要旨：Photo Assessment(以下, PA) (Ishimaru et al,2022) とは, 専門職種が患者宅に訪問することなく ADL や住環境の評価・生活指導を行えるよう, 介護者が撮影した家屋内外写真から生活環境を評価するものである。COVID-19 から学んだ生活指導・リハビリテーションに資する新しい遠隔型環境評価である。今回は, 大阪大学精神医学教室が臨床試行了した PA を基にした暫定版チェックリストの作成を目的に, 本研究では 1) 暫定版項目群作成, 2) デルファイ法を用いたチェックリスト項目の検討を実施した。老年精神医学, 認知症作業療法の経験を有す作業療法士 5 名で認知症に関連する日常生活及び環境因子に関する先行研究を元に暫定版のチェックリスト(PA-ADL チェックリスト)を作成した。老年精神医学および認知症の経験を有す研究分担者及び研究協力者に対して模擬ケースを元に, 暫定版 PA-ADL チェックリストの記入を依頼し, 項目の検討を実施した。「食事の支度」, 「生活の管理」各項目を詳細に検討した結果, 31/全 38 項目が 70%以上の高い一致率であった。一致率の低い項目を中心に改良を実施した。

#### A. 研究目的

認知症は, 認知機能低下に伴い様々な生活行為障害を生じるが, 早期から具体的な生活状態を捉えることはリハビリテーション計画に必要不可欠である。通所・訪問リハビリテーションや外来リハビリテーションなど在宅訪問時に観察や聞き取りにて実施している。しかしながら, 新型コロナウイルス感染拡大によって訪問や通所自体制限され, 非接触型の生活行為の評価および介入指導, 安全な生活環境の確保などが求められるようになった。共同研究機関である大阪大学精神医学教室では, 非訪問型の生活評価システム「Photo Assessment(以下, PA)」を開発した (Ishimaru et al,2022)。これは, 訪問を行う専門職種が患者宅に出向くことなく ADL や住環境の評価・生活指導を行えるよう, キッチンや風呂場などの各居室, 服用している薬の保管場所, 普段使用している

生活家電など, 在宅生活を把握できる評価項目をマニュアル化し, 本マニュアルに沿って介護者に自宅写真を撮ってもらい, 回収した写真から生活の評価するものである。写真情報は生活評価の上で非常に重要であることが確認された一方で, 評価者の職種や経験年数, 聞き取り方や居室写真の着目点の違いによって評価に差が生じることが考えられた。そこで初年度は, 通常臨床において過去に PA を実施した対象者をもとに後方視的に検証し, PA の手順書の作成および PA で重視すべき環境因子の暫定版チェックリスト(PA-ADL チェックリスト)の作成を目的とする。本資料では, 「食事の支度」, 「生活の管理」に関わる暫定版のチェックリストの整合性の分析について記載する。

#### B. 研究方法

暫定版チェックリストの作成を目的に, 本

研究では 1) 暫定版項目群作成, 2) デルファイ法を用いたチェックリスト項目の検討を実施した。

#### 1. 暫定版項目群の作成

老年精神医学, 認知症の経験を有す作業療法士 5 名で認知症に関連する日常生活及び環境因子に関する先行研究を元に暫定版を作成した。

#### 2. デルファイ法を用いたチェックリスト項目の検討

老年精神医学および認知症の経験を有す研究分担者及び研究協力者に対して模擬ケースを元に, 暫定版 PA-ADL チェックリストの記入を依頼し, 資料を郵送した。暫定版 PA-ADL チェックリストの各項目について, 各回答者がチェックをつけた/つけていない割合を分析し, 項目の整合性を確認した。チェックをつけていない場合を 0, チェックをつけた場合を 1 とし, 有効解答のうち各項目のそれぞれの割合を算出した。各項目は 0 か 1 に別れるため, いずれか高い値を用い, 一致の割合は 50%-100%の範囲を示す。一致度が低い項目(50%-60%台)を再検討し, 暫定版 PA-ADL チェックリストの改良を重ねた。

#### (倫理面への配慮)

対象者から大阪大学大学院医学系研究科精神医学研究室の包括的同意を得て実施した PA の結果をもとに後方視的に検討した。

#### C. 研究結果

チェックリストのうち食事の支度と生活の管理(冷蔵庫内の管理/郵便物・書類管理/ゴミの分別と保管)に関して分析及び修

正を実施した。

#### 1. 食事の支度 (表 1)

各項目の一致の割合は, 64.7%から 100%の範囲であった。一致の割合が 50%台であった項目は, 「スペースに見合った数の調理器具で収まっている」(64.7%), 「手が届く範囲に必要な道具が置かれている」(64.7%), 「コンロに自動消火装置がついている」(64.7%), 「床, 足元に進路を妨げるような物が置かれている」(64.7%)であった。回答者からは, 要確認事項として「ゴミ箱の操作方法が難しい可能性がある」「調味料は前棚に置いているのみか?」「まな板の置き場所(グリルの熱で溶けるリスクあり)」「ふいにコンロを扱っていたことはないのか?」「箸やスプーンなどの食器類については本人での準備手伝いなどは可能か?」という意見が挙げられた。回答者からの不明点として「家電の種類などわかりにくい」「調味料が台所の水際にあり, 入れ物で見えなくなっている」「調理器具も見えにくく, 家族による実施となっているためか?」「調理器具や洗剤/スポンジ, 火災報知機の場所が不明」という意見が挙げられた。

これらの項目を, 「調理器具の定位置がある」「調味料の定位置がある」「スペースに見合った数の調理器具で収まっている」の項目は写真では判断困難とし削除した。「コンロ周辺に引火物を置いている」の項目は, 具体的な表現で「布・油・袋・紙などコンロ周辺に引火物がある」とした。

#### 2. 生活の管理(冷蔵庫管理/郵便物・書類管理/ゴミ分別・保管) (表 2)

各項目の一致の割合は, 58.8%から 100%の範囲であった。一致割合が 50%台であった項目は, 郵便物・請求書管理の「未開封の

郵便物・書類を置く場所が決まっている」(58.8%)であった。一致の割合が60%台であった項目は、ゴミ分別・保管の「割れ物などの危険物を別に保管できる場所がある」(64.7%)、「主要な生活導線上にゴミが置かれている」(64.7%)であった。

要確認事項として「ゴミの管理が外になることで、衛生面（臭い、動物がくるなど）の問題はないか？」「自転車が多いが、ゴミ捨てを本人がするとき邪魔になっていないか？」「自動でゴミ箱のふたが理解できるか要確認」「本人が分別した捨て方ができているか。」という意見が挙げられた。不明点として「自分でごみの分別はしているか？」「自分ですてていないのか？ゴミ箱あけられる？」「現時点で立位でのふき取りをしているのか？」「不燃ごみ、資源ごみの置き場所」「ゴミ作業をするのか」という意見が挙げられた。

冷蔵庫管理については、「食料品の定位置がある」、「消費期限切れの食料品が貯蔵されている」は写真では判断困難とし削除した。「冷蔵庫の奥を見渡すことができる貯蔵量」については「冷蔵庫の容量に見合った貯蔵量」に統合した。「腐敗した食料品が貯蔵されている」はイメージ強化のため「萎びた野菜や食料品が貯蔵されている」に修正した。

郵便物・書類管理については、「本人宛と家族宛および未開封と開封済みを区別して置いている」は判断困難とし削除した。一致率の低かった「未開封の郵便物・書類を置く場所が決まっている」と「開封後の郵便物・書類を保管する場所が決まっている」は統合し「郵便物・書類を置く場所が決まっている」とした。

ゴミ分別・保管については、一致率の低か

った「割れ物などの危険物を別に保管できる場所がある」については個別性が高いため削除し、「主要な生活導線上にゴミが置かれている」については、他生活行為との調整により「床、足元に進路を妨げるようなゴミがある」とした。

#### D. 考察

今回、専門家で作成した暫定版の PA-ADL チェックリストを用いて模擬患者を通して項目の検討を実施した。食事の支度及び生活の管理（冷蔵庫管理／郵便物・書類管理／ゴミ分別・保管）の工程・動作に関わる環境因子に関して、多くの項目で高い一致割合を示した。しかし、7項目／全38項目において一致度が70%未満であった。これは、今回用いたのは模擬ケースであり対象者の実像を想像することが難しかったため判断が分かれたことや、用いた写真の画角や範囲により対象項目の内容が判別しづらかったこと、私用（本人）の有無が判別しづらいこと、項目の具体性等が影響していると考えられた。これらの問題点を極力修正し、妥当性を高めていく予定である。

#### E. 結論

今回作成した暫定版の PA-ADL チェックリストを用いることで、対象者の日常生活に関わる環境因子までも評価することができ、時間的・距離的に訪問が難しいケースなどの遠隔評価・介入に役立つものとする。今回分析した台所や冷蔵庫、ゴミ分別は初期の IADL 障害に好発しやすい場面であり、写真にておおよその状態予測が可能となり、スムーズな作業療法介入が可能になるかもしれない。加えて、PA-ADL で確認が難しかった内容を、実介入の際に生活行為工程

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）  
分担研究報告書

分析表（PADA-D）と合わせて確認すること  
とで対象者の ADL の改善に大きく寄与す  
ることが考えられる。

D. 食事の支度(台所周辺)

		環境特性			
		<input type="checkbox"/> オープンキッチン	<input type="checkbox"/> セミオープンキッチン	<input type="checkbox"/> ガスコンロ	
		<input type="checkbox"/> IHコンロ	<input type="checkbox"/> 食器洗い乾燥機	<input type="checkbox"/> 電子レンジ	
		<input type="checkbox"/> 冷蔵庫	<input type="checkbox"/> 造り付の収納	<input type="checkbox"/> 食器棚	
		工程・動作の質	工程・動作にかかわる環境因子		
調理 の 準備 から 片付 けま で	① 効率的観点		<input type="checkbox"/> 調理器具の定位置がある		
			<input type="checkbox"/> 食器用洗剤/スポンジなど台所用品の定位置がある		
	<input type="checkbox"/> 動作に時間がかかる（高・中・低）		<input type="checkbox"/> 調味料の定位置がある		
	<input type="checkbox"/> 動作エラーが増える（高・中・低）		<input type="checkbox"/> 水仕事に必要なシンクスペースが十分確保されている		
	<input type="checkbox"/> 問題なし		<input type="checkbox"/> 生ごみや洗っていない食器が放置されたままになっている		
			<input type="checkbox"/> 調理作業に必要な調理台のスペースが十分確保されている		
			<input type="checkbox"/> 煮炊き作業に必要なコンロスペースが十分に確保されている		
			<input type="checkbox"/> シンク⇔コンロ⇔調理台などの動線が確保されている		
			<input type="checkbox"/> 調理に関連のない物が置かれている		
			<input type="checkbox"/> スペースに見合った数の調理器具で収まっている		
			<input type="checkbox"/> 手が届く範囲に必要な道具が置かれている		
		② 安全性の観点		<input type="checkbox"/> コンロ周辺に引火物を置いている	
				<input type="checkbox"/> コンロに自動消火装置がついている	
	<input type="checkbox"/> 転倒・転落のリスク（高・中・低）		<input type="checkbox"/> 煙探知機/ガス警報器を備えている		
<input type="checkbox"/> 家庭内事故のリスク（高・中・低） (火災、物品落下などによるケガ)		<input type="checkbox"/> 十分な明るさがある			
<input type="checkbox"/> 問題なし		<input type="checkbox"/> 床、足元に進路を妨げるような物が置かれている			
備考	<input type="checkbox"/> 要確認事項				
	<input type="checkbox"/> 不明点				

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）  
分担研究報告書

E.生活の管理(冷蔵庫/郵便物・請求書/ゴミ分別)

冷蔵庫内の管理	環境特性	
	<input type="checkbox"/> 2ドア	<input type="checkbox"/> 3ドア <input type="checkbox"/> 専用冷凍庫
	工程・動作の質	工程・動作にかかわる環境因子
	① 効率的観点	<input type="checkbox"/> 食品品の定位置がある
	<input type="checkbox"/> 動作に時間がかかる（高・中・低）	<input type="checkbox"/> 保存容器に食品名/日付などのラベル表示がある
	<input type="checkbox"/> 動作エラーが増える（高・中・低）	<input type="checkbox"/> 冷蔵庫の容量に見合った貯蔵量
	<input type="checkbox"/> 他の問題（ ）	<input type="checkbox"/> 冷蔵庫の奥を見渡すことができる貯蔵量
		<input type="checkbox"/> 重複した食品品を過剰に貯蔵している
	② 安全性の観点	<input type="checkbox"/> 消費期限切れの食品品が貯蔵されている
	<input type="checkbox"/> 転倒・転落のリスク（高・中・低）	<input type="checkbox"/> 腐敗した食品品が貯蔵されている
<input type="checkbox"/> 家庭内事故のリスク（高・中・低） (火災、物品落下などによるケガ)	<input type="checkbox"/> 食品品以外の物が貯蔵されている	
<input type="checkbox"/> 不明点	<input type="checkbox"/> 冷蔵庫の上に物が積まれている	
<input type="checkbox"/> 他の問題（ ）		
備考	<input type="checkbox"/> 要確認事項	
	<input type="checkbox"/> 不明点	
郵便物・重要書類の管理	環境特性	
	<input type="checkbox"/> テーブル/卓上	<input type="checkbox"/> キャビネット <input type="checkbox"/> 書類ケース
	工程・動作の質	工程・動作にかかわる環境因子
		<input type="checkbox"/> 未開封の郵便物・書類を置く場所が決まっている
	<input type="checkbox"/> 動作に時間がかかる（高・中・低）	<input type="checkbox"/> 本人宛と家族宛に区別して置いている
	<input type="checkbox"/> 動作エラーが増える（高・中・低）	<input type="checkbox"/> 未開封と開封済みを区別して置いている
	<input type="checkbox"/> 他の問題（ ）	<input type="checkbox"/> 開封後の郵便物・書類を保管する場所が決まっている
		<input type="checkbox"/> 書類を種類別に分けて保管している
備考	<input type="checkbox"/> 要確認事項	
	<input type="checkbox"/> 不明点	
ごみの分別と保管	環境特性	
	<input type="checkbox"/> 台所周辺	<input type="checkbox"/> 勝手口周辺 <input type="checkbox"/> ベランダ
	工程・動作の質	工程・動作にかかわる環境因子
	① 効率的観点	<input type="checkbox"/> ゴミ箱の定位置がある
	<input type="checkbox"/> 動作に時間がかかる（高・中・低）	<input type="checkbox"/> ゴミの種類別にゴミ箱が分類されている
	<input type="checkbox"/> 動作エラーが増える（高・中・低）	<input type="checkbox"/> ゴミの分別/収集動作に必要なスペースが十分確保されている
	<input type="checkbox"/> 他の問題（ ）	<input type="checkbox"/> ゴミ箱にラベル表示がある
		<input type="checkbox"/> ゴミ出しカレンダーがある
	② 安全性の観点	<input type="checkbox"/> 割れ物などの危険物を別に保管できる場所がある
	<input type="checkbox"/> 転倒・転落のリスク（高・中・低）	<input type="checkbox"/> ゴミ箱の容量以上に大量のゴミを保管している
<input type="checkbox"/> 家庭内事故のリスク（高・中・低） (火災、物品落下などによるケガ)	<input type="checkbox"/> 主要な生活導線上にゴミが置かれている	
<input type="checkbox"/> 不明点		
<input type="checkbox"/> 他の問題（ ）		
備考	<input type="checkbox"/> 要確認事項	
	<input type="checkbox"/> 不明点	

G. 研究発表

1. 論文発表  
(英文)

1. Tabira T, Hotta M, Maruta M, Ikeda Y, Shimokihara S, Han G, Tanaka H, Yamaguchi T, Ishikawa T, Ikeda M. Characteristic of process analysis on instrumental activities of daily living according to the severity of cognitive impairment in community-dwelling older adults with Alzheimer's disease. *International Psychogeriatrics*, 1-12, 2022. doi:10.1017/S1041610222000552
2. Ikeda Y, Tabira T, Oshige T, Masumitsu T, Makizako H, KU-OHL Project member. Association between Sleep Onset Problem and Subjective Cognitive Complaints among Japanese Older Adults during the Coronavirus Disease 2019 Pandemic. *Int J Environ Res Public Health*, 20(1), 156, 2023. doi.org/10.3390/ijerph20010156
3. Ikeda Y, Maruta M, Han G, Miyata H, Nakamura A, Shimokihara S, Tabira T. Implications of refrigerator management on subjective memory complaints among Japanese community-dwelling older adults. *Psychogeriatrics*, 2022. doi:10.1111/psyg.12893
4. Akasaki Y, Tabira T, Maruta M, Makizako H, Miyata M, Han G, Ikeda Y, Nakamura A, Shimokihara S, Hidaka Y, Kamasaki T, Kubozono T, Ohishi M. Social frailty and meaningful activities among community-dwelling older adults with heart disease. *Int J Environ Res Public Health*, 19(22), 15167, 2022 doi.org/10.3390/ijerph192215167
5. Kamasaki T, Otao H, Hachiya M, Kubo A, Okawa H, Fujiwara K, Sakamoto A, Shimokihara S, Maruta M, Tabira T. Social Functioning and Life-Related Domains Associated with Cognitive Frailty in Older Adults. *Physical & Occupational Therapy In Geriatrics*, 2022. doi.org/10.1080/02703181.2022.2138678
6. Akaida S, Tabira T, Nakai Y, Maruta M, Taniguchi T, Tomioka K, Sato N, Wada A, Makizako H. Are satisfaction and performance of meaningful activities associated with frailty in older adults? *Arch Gerontol Geriatr* 2022. doi.org/10.1016/j.archger.2022.104845
7. Shimokihara S, Tabira T, Hotta M, Tanaka H, Yamaguchi T, Maruta M, Han G, Ikeda Y, Ishikawa T, Ikeda M. Differences by cognitive impairment in detailed processes for basic activities of daily living in older adults with dementia. *Psychogeriatrics*. 2022. doi: 10.1111/psyg.12894.
8. Ikeda Y, Maruta M, Shimokihara S, Nakamura A, Han G, Tabira T. Difficulties in the Use of Everyday Technology among Older Adults with Subjective Memory Complaint and Cognitive Decline. *Gerontology*;68(6):655-663, 2022 doi: 10.1159/000518390.
9. Maruta M, Shimokihara S, Makizako H, Ikeda Y, Han G, Akasaki Y, Hidaka Y, Kamasaki T, Kubozono T, Ohishi M, Tabira T. Associations between apathy and comprehensive frailty as assessed by the Kihon Checklist among community-dwelling Japanese older adults. *Psychogeriatrics*. 2022 doi: 10.1111/psyg.12867.
10. Sagari A, Tabira T, Maruta M, Tanaka K, Iso N, Okabe T, Han G, Kawagoe M. Risk factors for nursing home admission among older adults: Analysis of basic movements

- and activities of daily living. PLOS ONE, 2023.  
[doi.org/10.1371/journal.pone.0279312](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0279312)
11. Hidaka H, Tabira T, Maruta M, Makizako H, Ikeda Y, Nakamura A, Han G, Miyata H, Shimokihara S, Akasaki Y, Kamasaki T, Kubozono T, Ohishi M: Relationship between grave visitation and apathy among community-dwelling older adults. *Psychogeriatrics*, 2023.  
[doi.org/10.1111/psyg.12945](https://doi.org/10.1111/psyg.12945)
  12. Maruta M, Shimokihara S, Akasaki Y, Hidaka Y, Ikeda Y, Han G, Tanaka G, Higashi T, Moriuchi T, Tabira T. Associations between Optimism and Attentional Biases as Measured by Threat-Avoidance and Positive-Search Tasks. *Healthcare* 11(4), 617. 2023  
<https://doi.org/10.3390/healthcare11040617>
  13. Maruta M, Shimokihara S, Makizako H, Ikeda Y, Han G, Akasaki Y, Hidaka Y, Kamasaki T, Kubozono T, Ohishi M, Tabira T. Changes in Satisfaction with Meaningful Activities and Onset of Depressive Symptoms among Community-Dwelling Japanese Older Adults: A Population-Based Study Before and During the COVID-19 Pandemic. *Journal of the American Medical Directors Association*, 24(5): 702-709.e3, 2023.  
(和文)
  1. 田平隆行, 池田由里子. 認知機能低下に伴う生活行為障害に対するリハビリテーション. *老年社会科学* 44 (4) : 376-384, 2023.
  2. 田平隆行, 堀田牧. 生活行為工程分析表 (PADA-D). *大阪作業療法ジャーナル*, 36(2): 129-139, 2023.
  3. 田平隆行. 地域在住認知症高齢者の手段的日常生活活動に対するリハビリテーション. *精神神経学雑誌* 124 : 717-724, 2022.
  4. 赤井田将真, 中井雄貴, 富岡一俊, 谷口善昭, 立石麻奈, 田平隆行, 竹中俊宏, 窪菌琢郎, 大石充, 牧迫飛雄馬. 地域在住高齢者ドライバーにおける自動車事故歴と転倒歴の関係. *日本老年療法学会誌* 1 : 1-6, 2022.
  5. 池田由里子, 下木原俊, 田平隆行. 主観的もの忘れのある高齢者が困難さを感じやすい生活行為の特徴と視線行動との関連性. *地域ケアリング* 24 (13), 2022.
  6. 田平隆行, 池田由里子, 丸田道雄, 下木原俊. 健康寿命延伸と療法士：作業療法士の立場から—自分らしい地域生活を継続するための Meaningful Activity—. *日本老年療法学会誌*, 1 : 1-6, 2022.
  7. 釜崎大志郎, 大田尾浩, 八谷瑞紀, 久保温子, 大川裕行, 藤原和彦, 坂本飛鳥, 下木原俊, 韓侑熙, 丸田道雄, 田平隆行. プレフレイルからロバストへの改善に関連する基本チェックリストの各領域の特徴. *日本老年療法学会誌*, 2 : 1-8, 2023.
- ## 2. 学会発表
1. Tabira T, Ikeda Y, Maruta M, Han G, Tanaka H, Yamaguchi T. Effects of ADL intervention based on Process Analysis of Daily Activity for Dementia in community-dwelling patients with Alzheimer's disease: A non-randomized controlled trial. 18th World Federation of Occupational Therapists Congress. 2022年8月 (Web)

2. 田平隆行, 堀田牧, 池田由里子, 下木原俊, 丸田道雄, 韓 侑熙, 石川智久, 池田学. 地域在住主観的もの忘れ高齢者と軽度AD高齢者とのIADL工程障害の特徴. 第41回日本認知症学会学術集会／第37回日本老年精神医学会合同開催. 2022年11月（東京）
3. 下木原俊, 田平隆行, 堀田牧, 池田由里子, 丸田道雄, 韓 侑熙, 石川智久, 池田学. 地域在住認知症高齢者が実施している食事動作に含まれる工程の重症度別検討. 第41回日本認知症学会学術集会／第37回日本老年精神医学会合同開催. 2022年11月（東京）
4. 田平隆行, 佐賀里昭, 丸田道雄, 下木原俊, 岡部拓大, 磯直樹, 田中浩二, 韓 侑熙, 南拓磨, 川越雅弘: 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）における行動心理症状の特徴－介護老人福祉施設との比較－. 第1回老年療法学会学術集会, 2022年10月（沖縄）
5. 下木原俊, 田平隆行, 丸田道雄, 佐賀里昭, 田中浩二, 磯直樹, 岡部拓大, 南拓磨, 川越雅弘. 透析を行う高齢者と認知機能低下の関連について－介護保険認定データを用いた検討－. 第1回老年療法学会学術集会, 2022年10月（沖縄）
6. 池田由里子, 田代直子, 松川滉平, 田平隆行. 地域在住高齢者の視線行動と認知機能, 生活行為の関連性. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
7. 赤崎義彦, 丸田道雄, 下木原俊, 日高雄磨, 田平隆行. 地域在住高齢者における主観的記憶障害（SMC）と重要な活動の満足度との関連. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
8. ハンゴアンヒ, 丸田道雄, 下木原俊, 池田由里子, 田平隆行. 地域在住高齢者における社会的フレイルと心の理論との関連. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
9. 田平隆行, 池田由里子, 益満智美, 大重匡, 牧迫飛雄馬: 高齢者の趣味活動およびその満足度と主観的認知障害との関連. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
10. 日高雄磨, 丸田道雄, 赤崎義彦, 大勝秀樹, 田平隆行. 地域在住高齢者における墓参り行動の満足度とうつ傾向との関連. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
11. 丸田道雄, 下木原俊, 池田由里子, ハンゴアンヒ, 田平隆行. 地域在住高齢者におけるアバシーとフレイルとの関連. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
12. 下木原俊, 丸田道雄, ハンゴアンヒ, 池田由里子, 田平隆行. 地域在住認知症高齢者における行動症状に関連するADLの詳細なプロセスの検討－生活行為工程分析表（PADA-D）を用いた横断的調査－. 第56回日本作業療法学会, 2022年9月（京都）
13. 日高雄磨, 下木原俊, 赤崎義彦, 大勝秀樹, 田平隆行. 地域在住高齢者における墓への供花と高次生活機能との関連. 第32回鹿児島県作業療法学会, 2022年8月（種子島）
14. 下木原俊, 日高雄磨, 赤崎義彦, 田平隆行. 地域在住高齢者が重要としている作業活動の居住形態別特徴について. 第32回鹿児島県作業療法学会, 2022年8月（種子島）
15. 釜崎大志郎, 大田尾浩, 八谷瑞紀, 久保



温子, 大川裕行, 藤原和彦, 坂本飛鳥, 下木原俊, 丸田道雄, 田平隆行. プレフレイルからロバストへの改善に関連する生活関連機能の特徴, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会第12回学術集会, 2022年11月(福岡)

16. 釜崎大志郎, 大田尾浩, 八谷瑞紀, 久保温子, 大川裕行, 藤原和彦, 坂本飛鳥, 下木原俊, 丸田道雄, 田平隆行. 地域在住高齢者を対象とした cognitive frail に関する社会機能および生活関連領域の特徴. 九州理学療法士学術大会, 2022年11月(福岡)

17. 釜崎大志郎, 大田尾浩, 八谷瑞紀, 久保温子, 大川裕行, 藤原和彦, 坂本飛鳥, 下木原俊, 丸田道雄, 韓侑熙, 田平隆行. 地域在住高齢者の prefrail に関する生活関連領域の特徴. 第9回日本地域理学療法学会学術大会, 2022年12月(北海道)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし